

## アジアゾウにおける右前肢の治療経過

寺原三千男, ○落合晋作, 橋口泰志, 松元悠一郎  
桜井普子, 玉井勘次, 指宿亜矢子  
(鹿児島市平川動物公園)

平川動物公園では現在2頭のアジアゾウ（オス, メス共に推定37歳）を展示している。

平成25年6月26日に、アンリー（メス）において右前肢第四指爪基部の皮膚の一部に剥離が認められ、6月28日には剥離部付近の爪内部より膿様物が漏出していることを確認した。採血と併せて、オキシテトラサイクリン乳房注入剤（以下OTC注入剤）による患部への塗布及び塩酸シプロフロキサシン（シプロフロキサシン錠200mg：田辺製薬, 19600mg/日/頭）の経口投薬を5日間行って経過観察とした。投薬終了後も患部の改善を図るため洗浄とOTC注入剤の塗布は継続し、併せて爪のトリミングと血液検査を随時実施した。飼育環境については、土の放飼場を使用せずコンクリートの放飼場のみで展示を行い、プールへの入水を制限させることを目的とした寝室内での水浴びを実施し、患部への汚染が最小限になるよう努めた。しかし爪の膿様物の漏出が改善されなかったため、8月25日に患部下部の爪を削蹄し内部の状況を確認した。結果、膿様物漏出下部に壊死組織を確認し、以降は毎朝夕の壊死組織の切除とイソジンでの消毒に処置を変更した。また、蹄浴のためのフットバスターニングも取り入れていった。浴槽にはFORTEXゴム製飼料桶（口径43cm）を使用した。9月8日には、血液検査結果から白血球数の上昇（ $11000/\mu\text{l}$ → $16600/\mu\text{l}$ ）が認められたためノルフロキサシン（キサフロール錠200：沢井製薬, 19600mg/日/頭）の経口投薬を実施した。9月14日には患部の熱感と底部にかけて壊死組織が貫通しているのが認められたため、患部に対して垂直に大幅な削蹄を実施し、壊死組織を除去した。9月18日からは3%ポピドンヨード10Lでの蹄浴を毎日実施した。その結果徐々に患部の腫脹の進行が緩和されていった。9月末現在では完治には至っていないが、処置を継続することで、再生過程を記録し、完治を目指した効果的な削蹄等の処置及びケアトレーニングを模索し行っていくことを検討している。